

## 奈良県で川のポイ捨てを減らそう

3年1組2番 尹 茜婷

3年2組1番 今西美優

Keyword: 「環境問題」「ポイ捨て」「秋篠川」「海洋汚染」

## 1. はじめに

この探究を始めたきっかけは、川のゴミのポイ捨て減少なら、高校生の私達でも取り組むことができ、環境問題の解決に一步踏み込めると思ったからである。探究のテーマを決定する時に、海岸汚染に取り組みたいと思い、海に面していない奈良県でできることは、最終的に海につながる川を汚染から守ることであるため、私達はこのテーマに決定した。そのためにゴミのポイ捨てを行う人々の心理状態を変化させるために私達は心理学や行動経済学の知識を駆使して様々な取り組みを行った。

## 2. 序論

「川付近のゴミの減少を実現するためには、どうすればよいか」という問いを立て、そこから問いの探究のため、市役所に話を伺いに行ったり、奈良県内のボランティアで活動してきた。私達が毎月参加しているボランティアを主催している「秋篠川源流を愛し育てるの会」のみなさんに対しアンケートを行い、その結果私達は看板を設置しようと試みた。秋篠川源流を愛し育てるの会とは、毎月第三週土曜日に秋篠川にて、秋篠川周辺の地域の人々と共に清掃活動を行っている団体である。

## 3. 本論

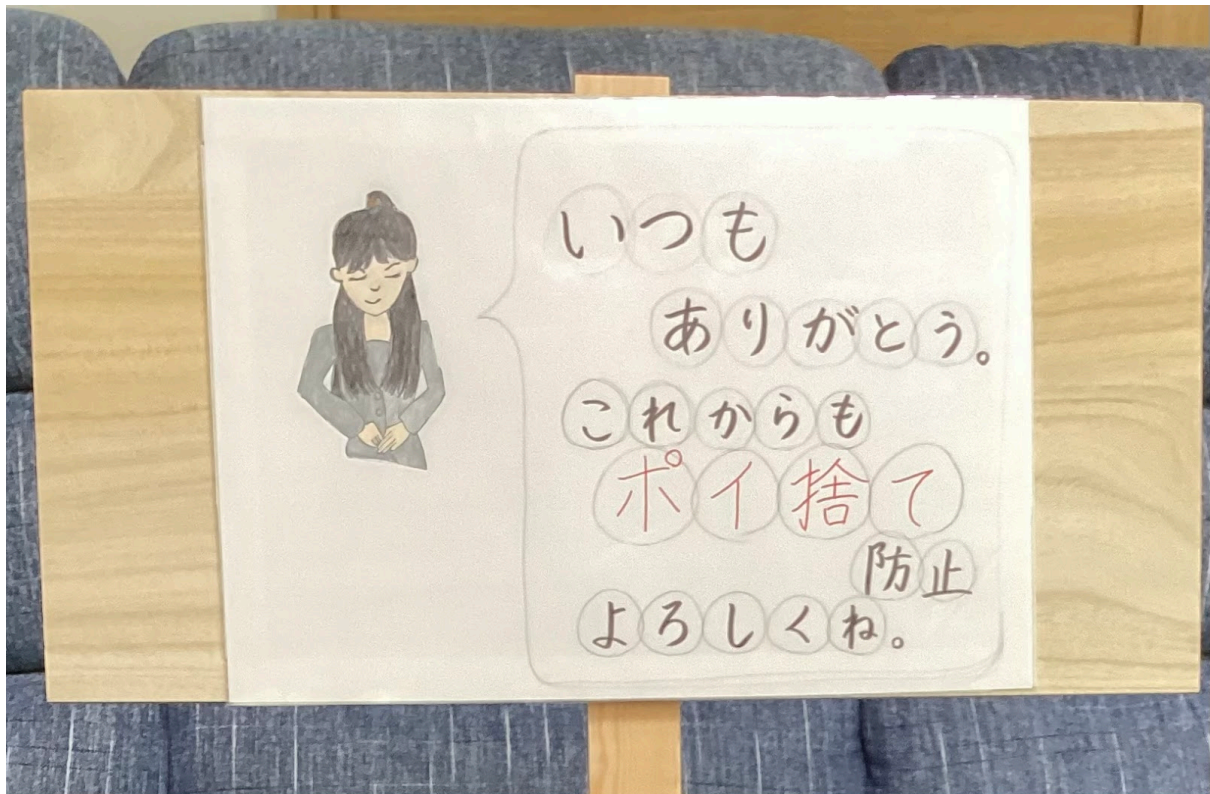
私達は、まず具体的な情報を得たかったので、修学旅行で金沢市役所に訪れた。その時には、環境政策課の高藤聖也さんにお話を伺うことができた。具体的に聞いたこととしては、川の汚染をどのように防ぐか、それをどのように行なっているのか、他の組織との連携はどのようなものであるか、である。

しかし残念なことに、そこで聞かせていただいた話は、かなり専門的な物で、かつ他の組織との連携が多く関係していたので、私たち高校生でこれらを行うことはかなりの困難を伴うものであったので、実践に移すことは断念した。

そこで私たちは、秋篠川源流を愛し育てるの会の皆様にアンケートを取ることにした。その結果、看板の設置という項目に多くの票が入っていた。

下記の資料はアンケートの結果の一部である。





奈良県庁にメールを送り、私たちの看板を見せたものの、耐久性に問題があったために、奈良土木事務所の皆様が、デザインは私たちが考案したものを使い、看板本体を製作・管理していただくことになった。しかし、論文を書いている期間内に看板の設置の続行に移すことができなかったため、ここでは看板の設置後の記録は残さないものとする。

#### 4. 結論

看板をたてるという具体的な目標ができるまでは、本当に色々なことを調べたりと、物凄く苦労した。だが、今回のこの経験を経て、周りの人からの協力、自分たちでアイデアを生み出すことの大切さを改めて感じた。周りの人の協力により、今回のような高校生だけではできないことも可能になったのだ。

今後の課題としては、ゴミを減らすことについて、さらに専門的な知識を取得し、色々な視点から、どのようにしてゴミのポイ捨てを減らすのか、をアプローチすることである。これからも様々なことについて探求していきたい。

#### 5. 参考文献・出典

2022年『奈良県で海を守る』奈良県立国際高校